

第三者評価結果

A-1 利用者の尊重と権利擁護

		第三者評価結果
A-1-(1) 自己決定の尊重		
【A1】	A-1-(1)-① 利用者の自己決定を尊重した個別支援と取組を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>利用者の自己決定を尊重した個別支援と取組を行っています。各部門で日々利用者から活動内容の希望を聞き、最大限本人の意向を尊重し、仕事や活動を行うようにしています。また、給食会議には毎回、6～8人の利用者が参加し、会議のはじめに食事の感想や希望メニュー、そのほかさまざまな意見を率直にだしています。</p> <p>この夏には、利用者の希望に応え、ウナギを提供しました。重症心身障害から就労支援までの幅の広い特性をもつ方が通う施設のため、利用者ひとり一人に配慮した支援をモットーとしています。今後は作業の工賃をあげて仕事へのモチベーションを向上させることを課題としています。</p>		
A-1-(2) 権利侵害の防止等		
【A2】	A-1-(2)-① 利用者の権利侵害の防止等に関する取組が徹底されている。	a
<p><コメント></p> <p>利用者の権利侵害の防止等に関する取組が徹底されています。利用者の人権擁護は、最も大切なテーマであるとして、毎年、法人内外から約1,000人が集まる「人権報告会」を続けています。権利侵害はこの3年間で生じていませんが、もし発生した場合は、所長からエリアマネージャー、常務理事、事務局長、理事長へと報告があがり、常務理事を委員長とする事故検証委員会を立ち上げます。</p> <p>第三者メンバーに入り現地を視察、検証しています。行動制限については、重症心身障害者対象に、安全確保のため車いすベルト等をしてはいますが、国のガイドラインに基づき実施し、家族から同意書をとっています。</p>		

A-2 生活支援

		第三者評価結果
A-2-(1) 支援の基本		
【A3】	A-2-(1)-① 利用者の自律・自立生活のための支援を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>利用者の自律・自立生活のための支援を行っています。日常必要な金銭は、財布をもち、自分で管理しています。昼の休憩時には、利用者が自由に自動販売機で飲み物を購入する姿がありました。通所時に、自分のロッカーに所持品等を入れて、自分で施錠します。鍵は紛失防止のため、帰宅時に事務所で預かる支援をしています。</p> <p>日課については、利用者自身で決め、職員がそれを支援するスタンスです。作業室での当番の順番を、利用者が考えて決めて、利用者が表に書いて掲示していました。行政手続きについては基本的に家族が行っていますが、それが困難な場合は、相談支援事業所と協力して行っています。</p>		

【A4】	A-2-(1)-② 利用者の心身の状況に応じたコミュニケーション手段の確保と必要な支援を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>利用者の心身の状況に応じたコミュニケーション手段の確保と必要な支援を行っています。重症心身障害者支援では、1対1の個別で対応し、利用者の表情など様子から、職員が利用者の意思を汲み取るようにしています。利用者同士の間関係のトラブルに職員が仲裁し、当事者のコミュニケーションを支援しています。作業室では、それぞれのブースに本人の特性に合わせて理解しやすいような図や絵も使って、予定などがわかるように工夫しています。</p> <p>また食品作業室では、作業の工程がわかりやすいように、写真や図を使って、壁に表示していました。必要に応じて、利用者本人の代弁者である家族に報告、相談し、連携をとっています。</p>		
【A5】	A-2-(1)-③ 利用者の意思を尊重する支援としての相談等適切に行っている。	a
<p><コメント></p> <p>利用者の意思を尊重する支援としての相談等適切に行っています。利用者が職員に話したいときには、随時受け止め個別に話を聞くようにしています。相談内容は、夕方のミーティングでグループ職員にも伝え、日誌にも記録しています。また、毎月開かれている支援検討会議でも報告され、他の職員にも周知し、職員全体で情報共有できるようになっています。</p> <p>相談内容は、内容によっては個別支援計画の変更にかかわるので、サービス管理責任者が担当職員と協議しながら、個別支援計画の改定につなげています。個別支援計画は、半年に一度は改定されており、利用者、家族の同意を得ています。</p>		
【A6】	A-2-(1)-④ 個別支援計画にもとづく日中活動と利用支援等を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>個別支援計画にもとづく日中活動と利用支援等を行っています。利用者は、毎日の日課を自分で決めることができます。その日にどんな作業をするかは、本人の希望を尊重しています。土曜日に多くのレクリエーションや多彩な文化活動に取り組んでいます。書道、草木染、こいのぼり製作、ボランティアによるマジック、ファミリーアンサンブル鑑賞、皿回し・傘回し等を楽しんでいます。</p> <p>毎年、横浜そごうで開催される「等身大画展」に利用者作品を出品していますが、ファッションデザイナーの協力で作品を制作しています。いずれの企画も、「またやってみよう」という利用者の声をもとに実施しています。</p>		
【A7】	A-2-(1)-⑤ 利用者の障害の状況に応じた適切な支援を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>利用者の障害の状況に応じた適切な支援を行っています。専門知識の取得と支援の向上を図るため、平成30年度は、法人内施設内研修が12回、延べ38名、法人外研修に25回、延べ32名が参加しています。また、職員が業務に関係する資格取得については、法人が全面的にバックアップしており、取得費用は法人が負担しています。</p> <p>毎月の支援検討会議において、障害特性に応じた支援方法を職員間で理解、共有を図っています。行動障害を原因とする利用者間のトラブルに対し、ワークルームの変更など、適切な対応をとっています。また、相談支援事業所や発達障害アドバイザーの協力を得ています。</p>		
A-2-(2) 日常的な生活支援		
【A8】	A-2-(2)-① 個別支援計画にもとづく日常的な生活支援を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>個別支援計画にもとづく日常的な生活支援を行っています。食事は、厨房で調理し、調理業務は給食業者に委託しています。栄養量を満たし、適温の食事に配慮して、利用者が楽しめるような食事を目的としています。給食会議には利用者が参加し、食事の嗜好について意見を述べており、実際に献立に反映されています。食事形態は、利用者の障害特性にあわせて刻みやミキサー食を提供しています。</p> <p>重症心身障害者の部門では、入浴業務を毎日行っており、機器浴槽を2台使用し、職員が介助しています。トイレは車椅子でも利用可能です。また送迎車が4台あり、自宅近辺への送迎を毎日行っています。</p>		

A-2-(3) 生活環境		
【A9】	A-2-(3)-① 利用者の快適性と安心・安全に配慮した生活環境が確保されている。	b
<p><コメント></p> <p>利用者の快適性と安心・安全に配慮した生活環境が確保されています。館内は全館冷暖房完備で、とくに重度心身障害者が活動する1階のスペースは、床暖房となっています。</p> <p>利用者は、それぞれ好みの場所があり、階段の踊り場、更衣室、エレベータ前等で休憩時間に思い思いに過ごしています。他の利用者に影響が出るときは、一時的に会議室や相談室を当てていますが、来客や面談で使えないこともあります。利用者の意向はその都度職員が聞き取って対応していますが、利用者の意向等を把握する取組方法の検討が期待されます。</p>		
A-2-(4) 機能訓練・生活訓練		
【A10】	A-2-(4)-① 利用者の心身の状況に応じた機能訓練・生活訓練を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>利用者の心身の状況に応じた機能訓練・生活訓練を行っています。重症心身障害者は四肢の拘縮が進まないように、毎日、運動やストレッチを行っています。月に2回程度、法人の「トランスフィットネス」のスタッフが訪問し、体操、ストレッチなど運動指導をしており、利用者も楽しみにしています。</p> <p>大和市内の桜ヶ丘中央病院リハビリテーション科と契約しており、言語聴覚士が3ヶ月に一回訪問し、利用者の咀嚼や嚥下の状態を診ています。利用者ごとに個別支援計画がたてられており、その中に必要な機能訓練、生活訓練の内容が明記されており、半年に一度のモニタリングで内容の検討と見直しがされています。</p>		
A-2-(5) 健康管理・医療的な支援		
【A11】	A-2-(5)-① 利用者の健康状態の把握と体調変化時の迅速な対応等を適切に行っている。	a
<p><コメント></p> <p>利用者の健康状態の把握と体調変化時の迅速な対応等を適切に行っています。健康診断は年に2回(9月、3月)行っており、結果については文書で報告し、必要に応じ、精密検査、再検査の要請について連絡しています。とくに重症心身障害者に対しては、毎日バイタルチェックをし、入浴時に全身の状態を観察しています。</p> <p>法人が経営する「大和さくらクリニック」と連携し、2ヶ月に1回、巡回診察を受けられます。看護師が2名配置されており、送迎の車両に必ず添乗し、体調異変時の処置などの対応をしています。職員会議等で、ノロウィルス、インフルエンザ感染対策などの研修を、看護師の講師で、実施しています。</p>		
【A12】	A-2-(5)-② 医療的な支援が適切な手順と安全管理体制のもとに提供されている。	a
<p><コメント></p> <p>医療的な支援が適切な手順と安全管理体制のもとに提供されています。重症心身障害の利用者のうち、気管切開の利用者が通っているので、主治医の指示のもと、職員が喀痰吸引などの医療的ケアを実施しています。喀痰吸引の指導認定資格をもつ看護師の指導の下、法定の研修を受けて認定資格を持った支援員が、特定された利用者の喀痰吸引の行為を行っています。</p> <p>毎月開かれる施設の看護師主催の「安全会議」が毎月開かれ、医療的ケアの安全確保や健康管理について協議、検討しています。薬は透明なビニール袋に入れて、利用者ごとに色違いのカードをつけ、名前と服薬内容を明記して、誤薬を防ぐ工夫をしています。</p>		

A-2-(6) 社会参加、学習支援		
【A13】	A-2-(6)-① 利用者の希望と意向を尊重した社会参加や学習のための支援を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>利用者の希望と意向を尊重した社会参加や学習のための支援を行っています。利用者が大きな筆と墨を使い、等身大画の人物絵を作品にする、等身大画の展覧会を毎年、横浜そごうで開いています。制作から展示まで、デザイン工房の協力を得て開かれる展示会は、毎回盛況です。さらに作品は、街中の横浜銀行の建物に屋外に向かって大きく展示されたこともあり、社会への参加とひろがりを感じられます。</p> <p>使用済みのペットボトルのキャップを収集し、世界のこどもたちにワクチンを届けるNPO団体に、利用者とともに届ける活動をしています。寄付したキャップ量で、何人分のワクチンが届けられたか報告を受けています。</p>		
A-2-(7) 地域生活への移行と地域生活の支援		
【A14】	A-2-(7)-① 利用者の希望と意向を尊重した地域生活への移行や地域生活のための支援を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>利用者の希望と意向を尊重した地域生活への移行や地域生活のための支援を行っています。利用者は入所施設ではなく、自宅やグループホームを住まいとしているので、地域生活を続けていくためにも、通所施設である当施設に安心して安全に通えるよう、運営面で配慮をしています。グループホームに入居を希望する利用者に対しては、情報提供を行い、見学の同行も行っています。必要に応じて、ショートステイの情報提供も行っています。</p> <p>また、利用者の高齢化にともなって、高齢者向け施設の方が、本人が地域生活を継続するためにはふさわしいと考えられる場合、デイサービスの紹介も、相談支援事業所の協力を得て、実施しています。</p>		
A-2-(8) 家族等との連携・交流と家族支援		
【A15】	A-2-(8)-① 利用者の家族等との連携・交流と家族支援を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>利用者の家族等との連携・交流と家族支援を行っています。家族会があり、年に4回開かれており、施設側の報告や懇談・交流が行われています。また、活動している様子を撮った写真や動画を上映したり、グループに分かれて懇談しています。</p> <p>家族会からは、非常時の備品などの寄付も得ています。利用者の生活状況や支援については、日々、送迎時に随時、家族に報告するとともに、半年に1回、個別支援計画のモニタリングの際に全員と面談して、意見交換や相談に応じています。毎年11月に施設で開く、お祭り(菜の花マルシェ)には、家族、親族も自由に参加し、出店の手伝いもしてくれています。</p>		

A-3 発達支援

		第三者評価結果
A-3-(1) 発達支援		
【A16】	A-3-(1)-① 子どもの障害の状況や発達過程等に応じた発達支援を行っている。	
<コメント> 評価外		

A-4 就労支援

		第三者評価結果
A-4-(1) 就労支援		
【A17】	A-4-(1)-① 利用者の働く力や可能性を尊重した就労支援を行っている。	b
<コメント> 利用者の働く力や可能性を尊重した就労支援を行っていますが、利用者一人ひとりの意向や障害の状況にあわせた支援が徹底出来ていません。就労に向けて、朝起きれない利用者には寝る時間を確認し、生活のリズムを整える指導をしたり、性的な教育も行っています。利用者の意向や障害の状況にあわせた能力向上や仕事や支援の内容について、利用者への定期的な報告と話し合いはできていません。不満を持つ利用者の把握と対応が課題となっています。 就労を希望する利用者には。就労援助センターや就労移行支援の事業所を紹介するなどの情報提供をしています。体験実習に職員が様子を見に行くなどの支援を行っています。作業収入は波があるが、収入増になるよう心掛けています。		
【A18】	A-4-(1)-② 利用者に応じて適切な仕事内容等となるように取組と配慮を行っている。	a
<コメント> 利用者に応じて適切な仕事内容等となるように取組と配慮を行っています。仕事内容は、利用者の状態に応じて人間関係などを考慮して出来そうなことに割り振りを行っていますが、希望により選択できるようにしています。 製菓部門は衛生上のこともあるので、選択できるようにはなっていません。工賃は一覧表で利用者に説明しています。工賃は生活介護と就労継続支援B型事業所も一律にしているため、分かりやすくなっています。		
【A19】	A-4-(1)-③ 職場開拓と就職活動の支援、定着支援等の取組や工夫を行っている。	b
<コメント> 就労援助センターや受注先の会社から就職先を紹介してもらっています。過去3年間で3人就職していますが1人離職しており、利用者と企業とのマッチングなどの支援などが課題となっています。 就職後3ヶ月位は家族と連絡を取りながら、就職先を訪問して、本人から話を聞くなど様子を見ています。離職しても戻れることは伝えていて、実際に離職した利用者の受け入れをしています。		